

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1271800193
法人名	有限会社旅路
事業所名	グループホーム旅路
所在地	〒283-0001 千葉県東金市家之子1671番地 (電話) 0475-53-1655

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年3月12日	評価確定日	5月1日

【情報提供票より】(20年2月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	22 人	常勤7人, 非常勤15人, 常勤換算4.6人	

(2) 建物概要

建物構造	旅路棟 軽量鉄骨造り / センター棟 木造
	旅路棟 3階建ての1~3階部分 / センター棟 2階建ての1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	旅路 31,500円	その他	食費36,000,水道光熱費12,800,オムツ代,理美容代,その他日常生活の便宜に関わる費用	
	センタ-36,750円			
保証金の有無(入居一時金含む)	無		有りの場合	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(2月27日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	69 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福元クリニック おぐらクリニック 両総病院
---------	-----------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山武杉の森や、九十九里の海に程近い自然豊かな環境に恵まれたホームである。2ユニットだが、道を隔てて一軒ずつに分かれており、ペンション風のセンター棟と一般民家のような旅路棟からなり、それぞれ管理者を置いて運営にあたっている。各ユニットが個性を出し、良い意味で競い合っている。どちらも明るく、ゆったりと落ち着ける空間である。庭の広い旅路棟には家庭菜園があり、両ユニットの入居者が畑仕事を手伝い、収穫した野菜は食卓に上がる。それぞれの管理者とも熱い思いを持ち、職員一体となってケアにあたっている。これが入居者に伝わり、家庭的な温もりのある雰囲気を出している。日中は近隣に住む高齢者が自由に出入し、くつろいでいかれたり、地域に根付いたホーム運営がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回外部評価から 運営理念:運営理念が明文化されていない件については、パンフレット、重要事項説明書に明文化されていた。 ケアサービス:定期的な会議開催については、月例会議が予定に組み込まれ開催されていた。また入浴の件については、日時を決めず入れるよう体制が整えられていた。 運営体制:研修の機会に職員間でばらつきがある件は、希望者だけでなく管理者からの意見がなされていた。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催されており、事業所の報告や参加者からの質問、意見、要望等を受け双方向的な会議となっている。運営推進会議以外にも市の担当者が週1回程度ホーム訪問があり協力的で、事業運営等相談をしやすい関係が確保されている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ご家族には訪問時など職員から積極的に声かけをし、意見を言ってもらえるように心がけている。ご家族からの意見、不安、苦情を伺い、日誌へ記録しその都度職員間で話し合いを設けている。「健康だより」にはご家族から意見を記載できる項目を独自に取り入れ、毎月ご家族に郵送している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一斉清掃や近隣の幼稚園や小学校の運動会に参加したり、大学からのボランティアの受入を行っている。また、コンサートや陶芸教室にホーム同士誘い合ったり、地域の方を招いたりしている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく自由に生活ができるための、相手の立場にたったまごころある介護サービスの提供」という事業所独自の理念を掲げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関等に掲示され、朝や月例ミーティングの際に、職員間で共有するための意見交換を行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一斉清掃や近隣の幼稚園や小学校の運動会に参加したり、大学からのボランティアの受入れを行っている。また、コンサートや陶芸教室にホーム同士誘い合ったり、地域の方を招いたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行われており、事業所の報告や参加者からの質問、意見、要望等を受け双方向的な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は週1回程度のホーム訪問があり協力的であり、相談事をしやすい関係が確保されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日のバイタルサインの結果や入居者の状況をまとめた「健康だより」を毎月発行し写真や金銭管理の残高通知書等を請求書と同封して家族に郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には手紙や訪問時、運営推進会議等で意見、不安、苦情を伺い、日誌へ記録しその都度職員間で話し合いを設けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットの職員を固定化し、馴染みの職員によるケアを心がけている。異動や離職がやむを得ない場合では注意深く見守り対応するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会等の案内はファイリングされ全職員が閲覧可能になっている。管理者から研修会参加への働きかけもあり、職員のステージにあった研修が受けられるよう配慮されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉連絡会や山武エリアネットワーク、市主催の交流会に積極的に参加し関連の事業所等との交流や意見交換、施設見学からサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホーム見学は随時受け入れ、入居前には自宅へ出向き話を伺っている。正式な入居契約であるが「体験入居」前提で受入をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>支援する側、される側という意識を持たず、お互いが協同しながら和やかな生活ができるよう場面づくりや声かけをしている。また「待つケア」を心がけ職員の都合を押し付けないようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式によるアセスメントシートを使用し、その中から見えてくる入居者一人ひとりの思いを把握する取り組みを行っている。</p>		<p>日常のケアのなかで入居者の行動、表情を注意深く観察することや、家族と話す機会を増やすことなどで、アセスメントシートに随時加筆し、さらに充実させていくことも必要と思われる。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成時には担当者会議を開き、そこで出された意見を反映している。家族の意見は面会時に聞いている。家族が遠方に住んでいてなかなかホームに来れない入居者のケアプランは黄色の紙にプリントし、同意が得られているかどうか確認するための目印としている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月に一度の見直しを行っている。また、状態に変化が見られた場合は随時見直しをし、介護計画の変更を実施している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	定期的な通院介助は施設長が 主として行っている。また、 自宅で生活している認知症の 方の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかか りつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受け られるように支援している	入居者のかかりつけ医は可能 な限り変更しない方針で、通 院もホームで同行している。 また、年1回の健康診断や週 2回の往診が実施されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	協力医とは24時間の対応が 可能で、ドクターも看取り 支援には協力的である。過 去にも看取りの実績があり、 今後も家族の要望があれば 終末期ケアを行う方針であ る。早い時期に家族との話 し合いを確立し、指針の設 置が急がれる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライ バシーを損ねるような言葉 かけや対応、記録等の個人 情報の取り扱いをしていな い	職員間では、入居者が気分 を害すような言葉かけをし ないことを取り決め、実行 している。また、重要書類 は事務所の鍵のかかる書庫 に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優 先するのではなく、一人ひと りのペースを大切にし、その 日をどのように過ごしたい か、希望にそって支援して いる	入居者一人ひとりのペース に任せ支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入は毎日入居者と一緒にかけている。食べ終わった食器を台所に運ぶ作業で入居者同士、お互いを思いやる風景が見られた。また、洗い物が得意な入居者と職員が共同で後片付けを行っている。職員も一緒にテーブルに付くが、食事介助に回ることが多い。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各ユニットで入浴の頻度は異なるが、ほぼ毎日、入居者の希望に合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の要望で2層式の洗濯機に交換したことで積極的に洗濯を行う方がいる。また、植物の水やりや世話などを職員と一緒にやっている。当日はひとりの入居者が楽しそうに刺繍をしていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は一日一回は散歩に出かける。車いすを使用している入居者も、車いす対応の自動車の購入により、外出の回数が増えた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけていない。入居者は自由に外に出られるようになっており、一人で出ていっても職員が声をかけ一緒に付き添う支援をしている。旅路棟は玄関を利用せず、庭から出入りする入居者が多い。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練をユニット毎に実施している。災害マニュアルも整備されており、災害時の備品の用意もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分と残食量を記録している。センター棟では高齢者施設用の食材を昼食のみ業者から購入している。入居者の食事介助方法は介護計画書に詳細に記入し、職員間で共有を図り、一人ひとりに合った支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットが完全に独立しており、旅路棟は民家改造型のグループホームになっている。バリアフリーではないが、段差解消や手すりの設置はされている。食堂には季節を感じる装飾が施されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の家族の写真や、箆笥、手作りの壁掛けなどが置かれ、安心して過ごせる居室作りがされている。		